



てんかんと運動異常症の 専門診療を実践

神経内科、脳神経外科、小児科との綿密な協力体制のもと、神経内科外来において、てんかん・運動異常の専門外来を行っている。てんかんに関しては、近畿地区の3次てんかん専門施設として、関連各科との密な連携のもと、てんかんの診断、内科治療および外科治療を行い、包括的てんかん診療を行っている。さらに、近隣医療機関と連携・協力し、京滋地区を中心にてんかん診療の病診連携体制の構築に努めている。

代表的診療対象疾患

発作性と運動異常の神経の病気を全般をみる。具体的には、意識消失発作、けいれんをはじめとした種々のてんかん症候群（特発性および症候性全般てんかん、部分てんかん）、および、不随意運動、ミオクローヌス（びくつき）、振戦（ふるえ）、パーキンソン病関連疾患の異常運動、ジストニアなどを対象とする。

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

日本てんかん学会専門医・日本臨床神経生理学会認定医（脳波領域）を持つ神経内科専門医が、てんかん・運動異常の専門外来を行う。年間1,600人を超えるてんかん患者の外来診療を行い、また京滋地区を中心に近畿一円の病院・診療所から約200名の患者が紹介され、診断、治療方針決定、そして逆紹介を行っている。

入院診療体制と実績

神経内科と共同体制で、年間200名前後のてんかん・運動異常症患者の診断、術前評価、薬剤調整を行っている。長時間ビデオ脳波モニタリング、超高磁場MRI、各種核医学検査、神経心理検査、脳磁図、免疫的検索等、大学病院の高度先進医療の立場から、診断と治療を行う。

神経内科病棟に、長時間ビデオ脳波モニタリングユニット（EMU）2床があり、てんかんの診断や、難治てんかんの外科治療（てんかん焦点切除術）の術前評価を行う。1992年以降、脳神経外科・関連診療科との協力体制で手術適応の検査を施行する体制ができており、190例を超えるてんかん外科手術を行い、てんかん発作の抑制・術後の生活の質の改善において、良好な成績を出してきた。

各種専門検査を提供できる放射線診断科、脳機能総合研究センター、さらに精神科、リハビリテーション部、中央検査部と協力して、関連診療科全体で融合的に合同症例検討会を月1回定期的に開催し、診断や手術適応などを討議し、3次専門施設として包括的てんかん診療を行っている。

臨床研究の取り組み

多様な臨床研究を展開

- ① 難治部分てんかんの術前評価法の開発（ワイドバンド脳波解析、てんかんネットワーク解析、脳波機能的MRI同時計測など）
- ② てんかん病態下の高次脳機能の機能変容（可塑性）の解明
- ③ 自己免疫性くすぶり型脳炎・てんかんの診断・治療の包括的研究

- ④ 臨床神経生理学的手法を駆使したてんかん発作治療法（ニューロフィードバック法など）の開発
- ⑤ ミオクローヌスてんかんなど運動異常症の病態解明と治療法の開発
- ⑥ iPS細胞をもちいたてんかん病態解明研究